

つばめ急便

中ロット・長尺物など配送

関西から各方面へ無中継

つばめ急便(石原修社長、大阪市北区)は9月から、共同物流事業として「B to B〈企業間〉ユニット便」を開始している。物流事業者が受注を敬遠しがちな中ロットおよび長尺物、機械類に特化したもので、同業他社3社と協業体制を築き、関西―中部―関東を結ぶネットワークを整備した。大阪府と兵庫県の一部を集荷エリアにスタートし、取扱量の推移を見ながら、少しずつ集荷範囲を広げていく。

(落合涼二)

同業3社と協業

集荷可能エリアは、大阪府内の13市と兵庫県尼崎市、伊丹市、西宮市。京阪(愛知県小牧市)、千葉セン

ター(千葉市稲毛区)など8拠点を中心に展開する。ケイシン(丸山英之社長、大阪府摂津市)、大阪北陸急配(早司武広社長、同)と山紀(佐藤勝利社

長、神奈川県相模原市)と連携。各社のネットワークを活用することで、関西から各方面への無中継配送を実現させた。

路線便で「中ロットは料金が割高になる」「機械類の無梱包は敬遠される」といった声や、チャーター便では「物量に見合った料金設定ができない」「特別な条件が無いのに割高になる」などの不満を聞く中、

開発した。

中ロットは1ト超、長尺物は長さ2〜6メートル以内を取り扱う。料金は0.5ト刻みの変動制を採用し、利便性を高めた。

石原社長は「複数の荷物を積み合わせするため、配送コストや車両の削減にもつながり、環境に優しい物流システムを提供できる。